第193回斜平山のスプリングエフェメラル観察会

2024年4月21日　8:00～15:30

高山の原生林を守る会

観察のポイント

1. 米沢の地理気候的特性を象徴する貴重な自然遺産である斜平山に咲く豊かなスプリングエフェメラルと大群落を観察します。
2. ユキツバキ、キバナイカリソウ、オクチョウジザクラ等の吾妻連峰を境に福島市の低山では見られない植物を観察します。
3. 多種類のスミレ類と交雑種
   多雪地帯に植生するスミレ類やオオタチツボスミレ、タチツボスミレ、ナガハシスミレの交雑種のムラカミスミレやイワフネタチツボスミレが観察できます。

観察のための豆知識　スラスト-フロントマイグレーション

斜平山山塊の地質の大部分は泥岩によって占められています。これは，約1600 万年前頃からの深海となっていく環境で堆積されました。その後800 万年前頃からの火山活動により隆起し、400 万年前頃から東西方向の圧縮の力によって上昇，陸化が進み，逆断層が形成されました。斜平山の地形は逆断層線の低地側への移動現象（スラスト-フロントマイグレーション）に起因するとされています。愛宕山から笹野山にかけて大崩壊が起こって，崩落崖である急崖ができ，その下側に崩積土による広い緩斜面を形成しています。
（米沢中央高等学校「米沢盆地西縁断層南部の地形」より）

観察コース　歩行距離 5 km

日程
8:20　四季の里
9:20 ①大森山森林公園
10:30 ②中の道
11:00 ③堺の沢
11:45 ④七曲り分岐（昼食）
12：30
13:20 ⑤林道分岐
14:30 ①大森山森林公園
15:30　四季の里

植物ミニ図鑑　カタクリ

ユリ科カタクリ属の多年草。コナラ林からブナ林にいたる落葉広葉樹林の湿り気のある林床に自生する。スプリングエフェメラル（早春季植物）の代表種。

種子の発芽から7年までは花を着けず、1枚の葉で地下の鱗茎に同化養分を貯蔵し続けます。7.8年後に葉が2枚になると花芽を着け開花します。開花は数年継続します。同一の花では受精することは無く（自家不和合性）、訪花昆虫により他の花から花粉を運んでもらい受精します。訪花昆虫はクマバチ、マルハナバチ、（ヒメ）ギフチョウなどが代表的です。

葉の活動期間は1か月余りで5月中旬までには消滅してしまいます。花被片（花弁）は10℃から開き初め１７℃以上になると反転します。花被片の内側にはハート状の模様がありますが、その内側には蜜が分泌しており、訪花昆虫に対するシグナル（蜜標）ではないかと見られています。葉には斑紋と呼ばれる模様がありますが、植生する地域域により変化があるようです。

カタクリは春の光が大好きで、暗いところでは花を咲かせることはできません。カタクリの好きなところは、クリやコナラ、ミズナラ、ホオノキなど、春の芽吹きの遅い落葉広葉樹の森があるところです。同じ落葉広葉樹でもブナやヤナギの森の下では早く光が遮られるのであまり適していません。

植物ミニ図鑑

オトメエンゴサク

ケシ科キケマン属の多年草。コナラ林からブナ林にいたる落葉広葉樹林の湿り気のある林床に自生する。カタクリやニリンソウと並ぶスプリングエフェメラル（早春季植物）の代表種。

花の色は青紫色が多いが、同じ群落内でも濃淡があり赤紫まで微妙に花色が変化する。花からは心地良い香りが発散され、オトメエンゴサクが満開になった群落では、この芳香が独特の雰囲気をかもし出す。

アズマイチゲとキクザキイチゲ

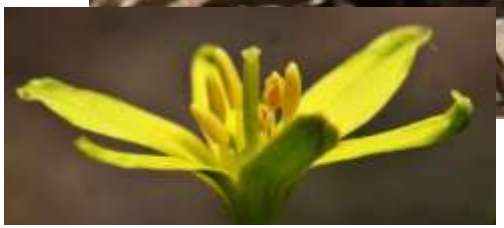
キンポウゲ科イチリンソウ属の多年草。落葉樹林の明るく、やや湿った林縁や沢筋に生育する。花弁は無く、がく片が花弁状に展開する。いずれも代表的なスプリングエフェメラルで融雪後、間もなく開花する。

開花期はアズマイチゲの方が幾分早いようである。花色はアズマイチゲは白のみであるが、キクザキイチゲは白と青紫の2群が見られる。青紫系は多雪地帯で多いようである。アズマイチゲは開花、間もない時期ははがく片の裏側が淡い赤紫色を帯びる。

植物ミニ図鑑

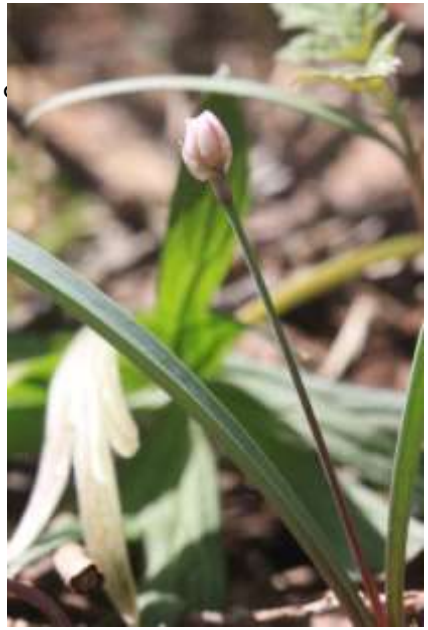
キバナノアマナ

ユリ科キバナノアマナ属の多年草。日当たりのよい草地や林のふちなどに生える。融雪後、間もなく開花する迎春花。根生葉が1枚なのが2枚のアマナ属と異なる特徴。根生葉は線形で白緑色、やや厚く、長さ15～30cm。茎頂に黄色花を散形状に3～10個つける。花被片は6枚で、内面が黄色、外面は緑色を帯びる。雄しべは花被片より短い。分布は冷温帯型で多雪地帯に多い。



ヒメニラ

ユリ科ネギ属の多年草。日当たりのよい草地や林のふちなどに生える。雌雄異株であるが、両性花も見られる。根生葉は2枚で、単面葉である。葉の近くではニラの匂いがする。花被片は6枚であるが、開花しても平開しないので合弁花のように見える。開花はキバナノアマナより1週間程度遅い。キバナノアマナもヒメニラも東北の里山の水田や河川に隣接する草地に植生していたが、都市化に伴い、急激に植生地が減少している。



植物ミニ図鑑

スミレサイシン

スミレ科スミレ属の多年草。日本海側を中心とした多雪地帯の山地に植生する。半陰性で沢沿いや、湿った落葉樹林下で群落を形成する。スミレサイシン節として区分されている地上茎を持たないスミレ群の代表的な種。同じ群に属するアケボノスミレは、分布域が太平洋側でスミレサイシンと住み分けている。斜平山ではシロバナ種も多くみられる。繁殖は、地下茎と種子で行われる。

トウゴクサイシン

ウマノスズクサ科カンアオイ属の多年草。日本固有種。関東・中部地方北部から東北地方に分布。山地の落葉広葉樹林の林床に生育する。従来、これらの地域に分布する種は、ウスバサイシンとされてきたが、山路弘樹、中村輝子ら（2007年）の研究により、独立した種であるとわかり、新種として命名記載された。萼筒内壁がウスバサイシンのように全体が暗紫色にならず、白色や淡桃色で部分的に暗紫色になる

植物ミニ図鑑

ユキツバキ

ツバキ科ツバキ属の常緑低木。コナラ林からブナ林にいたる落葉広葉樹林の林床に自生する。多雪地帯に適応し、太平洋側に植生するヤブツバキと住分けている。ユキツバキの雄しべは花糸が黄色でで分離しているのに対しヤブツバキは花糸が白で基部は癒着している。中間種をユキバタツバキという。雄しべの花糸は黄色で基部が短く癒着している

ユキツバキ ⇨

⇦ ユキバタツバキ

メモ

ゴミは必ず持ち帰りましょう！
植物の採取は厳禁です！！